

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践

くらしと健康

No. 693 2025年 7月号 1部60円 友の会会員は会費に含まれています 発行 東京勤労者医療会代々木病院 院長 河邊 博正 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7 TEL 03(3404)7661 http://www.tokyo-kinikai.com/yoyogi

認知症対応が地域の課題

新宿地域・地域包括支援センター ケアマネージャーの方と意見交流会



8事業所・11名のケアマネージャーの方と意見交換あいさつをする代々木病院の河邊院長

5月28日、おおくぼ戸山診療所と代々木病院は「新宿地域・地域包括支援センター&CMさんとの意見交流会」をおおくぼ戸山診療所で開催し、8ヶ所の事業所から11名のケアマネージャーの方に参加され、各事業所の方から「孤独死、認知症のケースが増えている。徘徊して道に迷い、自宅に送っても家族がい

参加者から日常的なお困りごとや質疑応答など意見交流を行いました。参加者されたケアマネの方から「孤独死、認知症のケースが増えている。徘徊して道に迷い、自宅に送っても家族がい...」具体的な質問として、「地域包括ケア病棟でリハビリはどのくらい行えるのか?」「癌の再発、下血で緊急入院した後、階段昇降の訓練のために地域包括ケア病棟に入院出来ますか?」「転倒して救急車で走っても、入院適応が無いと帰されるが痛くて動けなくて困っている場合、入院させてもらえるか?」などの質問が出されました。おおくぼ戸山診療所の代田所長から「(入院の適応など)なんでも相談



質問にお応えするおおくぼ戸山診療所の代田所長

猛暑による熱中症に「注意を

梅雨明け前から猛暑

今から熱中症の予防と対策

熱中症とは

気象庁は6月10日に関東地方が「梅雨入りしたとみられる」と発表しました。熱中症になる方が一年で最も多いのは梅雨明け直後ですが、今年は梅雨明け直後のような暑さが早まっています。梅雨明けは、さらに猛烈な暑さとなり熱中症の発症リスクも高まります。いつでもどこでも誰でも条件次第で熱中症を発症する危険があります。そのため、普段から熱中症の予防対策法を知っておくことが大切です。

高温多湿な環境で体内の水分や塩分のバランスが崩れ、体温の調節機能がうまく働かないことにより発症します。

＜症状＞

- めまいや顔のほてり
筋肉痛やけいれん
体のだるさや吐気
汗のかき方が異常(汗が止まらない・または汗が全くでない)
体温が高い・皮膚の異常(皮膚が熱い・赤く乾いている)
まっすぐ歩けない・呼びかけに反応しない
水分補給ができない

＜熱中症を引き起こす3つの要因＞

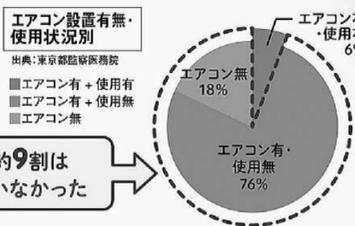
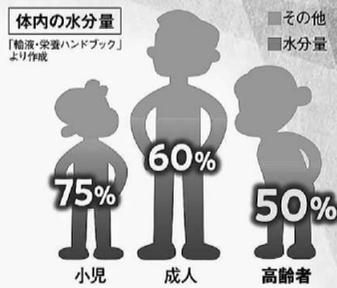
①環境

- 高温多湿
急に暑くなった日
風が弱い
日差しが強い日
閉め切った屋内
エアコンのない部屋
高齢者や乳幼児・肥満の方
糖尿病や精神疾患などの持病
低栄養状態

(2面へ続く)

！高齢者は特に注意が必要です

- 1 体内の水分が不足しがちです
高齢者は若年者よりも体内の水分量が少なく、体の老廃物を排出する際にたくさんの尿を必要とします。
2 暑さに対する感覚機能が低下しています
加齢により、暑さやのどの渇きに対する感覚が鈍くなります。
3 暑さに対する体の調節機能が低下します
高齢者は体に熱がたまりやすく、暑い時には若年者よりも循環器系への負担が大きくなります。



東京都23区における熱中症死亡者の状況(令和3年夏) ※計39人(速報値)のうち

約8割は65歳以上の高齢者
屋内での死亡者のうち約9割はエアコンを使用していなかった

で、遠慮なくご相談下さい」と話されました。代々木病院との連携について、参加者から「いつも困難なケースの相談にお願いできる」との声もいただきました。交流会を通じて地域包括支援センターやケアマネージャーさんと定期的に意見交換の場を持つことの大断られそうなきっかけも感じました。



内科医師紹介
小森那子医師

消化器内科
★患者さんへ一言
渋谷区は長年住んでいることもあり、大好きな街です。地域の皆様、どうぞよろしくお願いたします。

千駄の萱

2025年 に入って半年が過ぎたが、世界も日本もますます混沌とし、かつ危険度も増している。ウクライナ、ガザで苦しみの連鎖が切れない中で、イスラエルとイランという中東2大軍事大国の衝突。お互いの首都レベルへの攻撃は小競り合いではなくもはや「戦争」。

国境を接していないため陸上戦にはならないものの、空爆や長距離兵器による攻撃の応酬は被害を増加させる要因だ。世界の王様気取りなトランプは止められるのか。この号が出る頃には停戦してほしいと心から願う。ひるがえって国内は「令和の米騒動」である。質はともかく収穫量は十分と言われた2024年。米がなぜ市場に行き渡らないのか、という追求がほとんどされないまま「米が無い」「米が高騰」という状況が収拾のつかない事態に至った。政府備蓄米の放出量は東日本大震災時の20倍に達する。これはいったい何だ?大震災や気候要因で凶作と言ったときでもこのような事態には至っていない。長期間にわたる減反政策も原因の一つではある。食糧自給もまた国防そのものではないだろうか。

(ひ)